

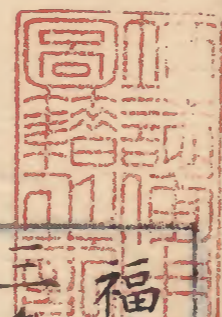
和書門	
二九三一五號	函
一六一五	架
三五	冊

內閣文庫	
二九三一五號	和書
三五	冊
三五	架

內閣文庫	
番號	和 29315
冊數	35 ( 10 )
函號	175 172

地五七



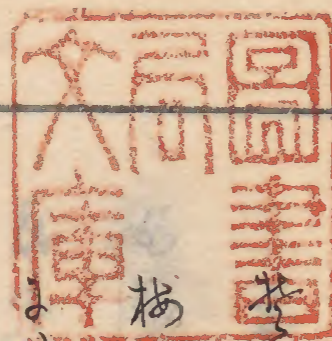
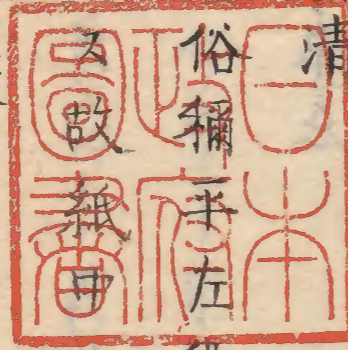


福山志稿卷十

總叙第十

内二一〇一五終

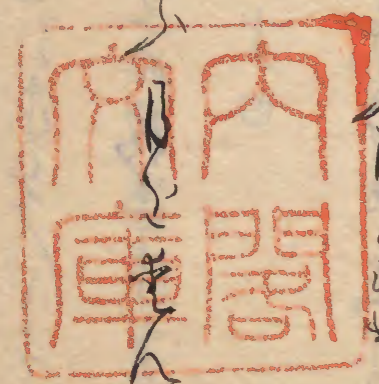
昌清俗稱平左衛門鞆浦人  
和歌ヲコトテヨリ搜出セシ咏左ニ



梅仙堂山人云に志稿の  
一門才の初と終より始るるも

邊取の詞と題するも

皇皇此助小川ありて名ありと  
こしりたりといふ



酒ハ皆ハ... 田代... 連哥... 曲...

月... 女...

夏中懐舊

か... ぢ...

寄車志

あ...

生...

残雪

も... 山...

名所山

名... 浦...

浦上圓意

備後府中市人俗稱七郎右衛門ト云有雅長伯ニ學ヒ歌ヲ善クス

五去

いふはもなきけふとまのうらみよのなちぞとけり  
あけく見乃と

更衣

花は香ふゆきふし御乃名候乃とけり  
なれあらとけり

すこと

水鳥のけけしはくさくさくさくさくさくさくさくさく  
まこととけり

麻

いふ乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
くけい乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

月

控し世八月のけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけ  
けけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけ

雪返霜

ひとむのあさあえてけけけけけけけけけけけけけけけけけ  
あけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけ

落葉

さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく  
さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

おしけれたつみち

### 木嵐

木りりーも厭ひぬ色ハと紙やけし獨林しき  
うひれときひま

### ふ道遠年迄

歳と歳うあふ後とせしれあり波ぬしきくせいのそ

ありハこけ月を

### 寄江島

おふゆハびしみの入江の舟儀はくしきく流し  
くちまをそぬ森

### 無常

いすハししきの原畑ハ鳥給山高紀りやしき

船了てまハある

### 同寄船歌

船歌ハ日歌す川舟とある者とりつと定えぬ

世れあしういひま

### 追悼

あき人ハ十年節くれ衣をつく拓野くく

ふろしうしかな

あきとる浄界よす

くみくをよ誰うハ志く正五十鈴川水底  
のく此ちのいご

僧性潜

浦上圓意カ子字黙龍金龍寺ニテ薙髮シ三縁  
山ニ學フ苦行身ヲ終レ信敬ノ人多ク延享四  
年五十八ニテ尾道ニ終ル圓意別ニ子ナシ潜  
ニ家ヲ継シメントシソノ出家ノ志ヲ奪ント  
ス或ハ美女ヲ侍セシメナトセシカ氏キカハ  
リシト云戒陣ト云僧ノカケル傳アリ長ケレ  
ハハセス

桑田知新

知新ハ山南人稱興一

暮春登山

纒欲窮山趣便思逃世縁松梢過彩鳥花底走紅  
泉坐石青氈在閑樽翠幙連却愁雙鬢色何得待

明年

送素行生文京

二月霜飛水國寒孤舟盪滌向長安離筵楊柳青  
々色無限春情入森漫

採蓮

江曲彼恬挂掉輕誰家女伴採蓮行兼重花亂人  
何在花底唯聞笑語聲

庄助

與太郎

二人、有地村ノ孝子也梅宇先生ノ傳アリ左  
備後州福山管内、蘆田郡上有地村、有彌兵衛者、  
有男二人、長曰庄助、年三十二、次日與太郎、年二  
十六、二子平生甚孝父母、唯命是從、一無違忤、彌  
兵衛自癸卯臘月、卧病在牀、日就衰耗、一步不能

致二子憂之、相謂曰、大人齒起耳順、病且衰頹、然  
家本貧窶、薄田三石、奉充租稅、更無餘贏、可供其  
旨、針藥無方、菽藿是供、何有補元起病之理、若進  
米飯、則疾病有少愈乎、因就隣保或親故、借少許  
米、炊進者、數日、彌兵衛謂二子曰、汝等憂吾之衰  
病、日夕假貸、使喫米飯、其志可荷、然半菽之食、是  
農家之常、三時不怠、人猶且困、吾痼疾、洩年、不能  
把耒耜、徒食米飯、則天威咫尺、禍祟不測、且汝等  
日夕假貸之員、何日償之、納租之時、歲々有不足  
之憂、欲償其員、則復益逋、自今勿再進、二子恐怖

其意不強進、然不借則不能進、借則違親之意、百計無策、偶聞沼隈郡新庄山樵薪傭人、輸松永浦、相與到其許負薪、以其雇直買米及小魚以進、既數日、彌兵衛熟知其狀、謂二子曰、播厥之始、一日已荒、則不能見翼々之盛、何有方皂之成、汝等日、日往松永浦、田事荒廢、曠其本業、自今務服田畝、勿以為念也、二子徐答曰、一日之間、朝昏力作、則其功奚輸衆人、雖晝間往松永浦、而何妨之有、彌兵衛不肯聽、二子恐唐突其意、後數日、二子復竊輸薪、復買米炊而進、彌兵衛對飯涕泣、不能下筋、

近隣有喜右衛門者、忽爾偶來、見其對飯涕泣、而

問其故、彌兵衛答曰、更無他故、二子事吾之篤、不

覺淚下、具陳其顛末、喜右衛門亦相與感泣而歸、

到庄屋本邦差邑之者宿堪幹事者一人掌邑事名曰庄屋與八郎家、縷陳

其狀、與八郎感其至性、呼彌兵衛保長、同保中之長、今日組

合鈞頭、忠右衛門同惣三郎、問曰、頃聞當邑彌兵衛

者、二子甚與父母不諧、然乎、二人答曰、是何人之

說、而過聽乎、彌兵衛二子、平生至孝、無一言與父

母忤、長子有妻、當年產一子、其妻亦執婦道、車男

姑最謹、且彌兵衛臥病涉年、其飲食供奉、委曲盡



心一々陳其車與八郎謂二人曰嚮彌兵衛近隣人既來告其狀然非汝等之言則難認實故問向吾說二子與父母不諧者設辭也汝等之言與向告來者之言如合符節嗚呼純孝之人一鄉無異辭者希有之人也屬忠右衛門曰率彌兵衛二子來面聞其車且褒彌之也忠右衛門到彌兵衛之家謂二子曰庄屋殿有命宜共到宅二子曰吾儕下流賤農未嘗至庄屋將何車見召乎若知其狀竊見告忠右衛門曰汝等孝父母之事傳播邑中想欲褒彌乎二子曰子之事父母當然之事何足

被褒彌大爺善為辭忠右衛門喻曰不至庄屋宅則或有呵責二子不得已與忠右衛門共到與八郎出見二子問其孝親之狀二子一々具陳且謂曰家本貧窶使親不得其旨之養一大不孝也進少許米飯以養其衰病何見褒賞之有其言真率無少辭避與八郎謂二子曰汝等一邑之模楷益勵其行勿怠勿荒負薪之事父之所戒有理吾與米少許以是餌乃與精米一斗二子拜謝齋歸示父母父母怡悅攀邑感彌頃達于吾侯之聽召二子賜米教俵以旌其純孝賞庄屋與八郎素履

篤實、典善之厚、周給之勤、賜黄金教片云

皆享保九年甲辰秋七月既望

備後福山府記室伊藤長英重藏南撰

六郡志云、此處乃其子也、即戸多村者也、  
あとも醫のまゝ、系と乞病於了、あ頓て洞合し  
てり、さし、ふを、即思し、何の病して、病く  
して立てり、何して、さく、病、さる、ま、と、さ  
か、遊、け、り、す、れ、ぶ、く、同、く、ハ、か、平、し、子  
何、る、よ、き、系、名、く、洞、合、く、た、く、と、り、ふ、す、き  
系、名、と、り、ふ、ハ、了、あ、代、ま、く、した、せ、り、名、也、了、あ

系、字、名、ま、り、何、を、病、く、病、ハ、字、名、あ、く、ま、ゆ、り、  
や、系、粗、果、や、じ、く、あ、り、く、か、く、り、い、く、也、了  
安、平、は、短、過、や、る、性、ま、り、て、り、病、く、こ、し、よ、ハ、り、ま  
す、き、さ、し、く、り、く、こ、し、つ、り、ま、り、く、と、り、病、り  
兄、才、急、慥、孝、順、や、る、り、て、病、く、病、く、と、ま、り、病、ハ  
す、ふ、く、し、く、ま、り、系、名、く、り、ま、せ、り、く、て、や、り、り  
り、云、云、

治兵衛ハ福山屋一兵衛ト云モノ、男府中市

平人孝行ヲ以延享四年褒美米五俵ヲ賜ハル

宇兵衛

宇兵衛ハ福田村ノ人母六十餘ニテ病身也ノ  
ノ妹まづモ又病アリテ看護介抱スルヲ夕  
ハス宇兵衛年十六ヨリ出テ他人ニ仕ヘ二人  
ヲヤシナフ毎夜少時ノ暇ヲ乞フテ母ヲ省ス  
至家ノ下男サト一同ニ田畑ニイテ、耕耘ス  
ルニ餉シ烟草ノム隙毎ニ坼ナル青蒿ヲ刈取  
母ニオクリテ蚊遣トナス母イヨク老テ後ハ  
仕ヘヲヤメテ家ニカヘリ晝夜心カヲツクス  
母ノ病ヒニアル時毎ニ竹輿ヲ借來リ從房果

ヲ夕ノミ相肩トシテ母ヲノセ所々ノ寺社ニ

吉詣ス延享五年米五俵ヲ賜ハル

六三郎

六三郎ハ孫惣ト云モノ、子東村ノ人孝行ヲ

以寶曆八年褒美ヲ賜ハル官刻孝義録ニ出

菊女

菊ハ道上村任右衛門カ女福田村甚ハカ妻也  
舅甚五郎年八十三姑きあ年八十老衰歩行カ  
ナハス夫甚ハニ夕惡疾ニテ戶外ヘ出ス菊コ  
ノ三人ヲ介抱シテ急ラス凡人ノイニキラフ

丁少モイナム色ナレ又兄カヘリテ再嫁セヨ  
ト勸ル丁レハクナレ臣我カヘラハ三人トモ  
ニ飢エナニタトヒ我モトモニ餓死ニイタル  
臣カ、ル辛苦ヲ見ステ、歸ル心アラシヤト  
云テキカス晝ハ身ツカラ耕耘シ夜ハ賃仕事  
シテ三人ヲハコクニ一人ノ子ヲソタツ隣人  
菊カ腹タルヲ見レ人ナシト云寶曆十一年一  
六口俵ヲ賜フ

吉郎兵衛

白銀屋吉郎兵衛ハ府中市人人孝行ヲ以褒美

ヲ賜ハル年曆レリス凡四十年前ノ丁ナリ  
ト云 其時 外 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋  
久兵衛 山南村 人 孝ニテ 安永九年 米三  
俵夕マハリ 寛政二年 御茶屋ニテ 錢ヲヨヒ  
酒ヲタマフ 七之助

七之助ハ下加茂村典五兵衛カ子也孝行ヲ以  
明和四年亥年米五俵ヲ賜ハル父母没後服部  
本御村孫四郎カ養子トナリ又養父母ニ孝行

也トテ寛政元年酉年ニ錢二貫文ヲ賜ハルセ  
之助ハ幼名也本郷ニテシハラク茂兵衛ト稱  
ス養父没後ニ其名孫四郎ヲ襲フ

吉十郎

吉十郎ハ市村ノ人孝ニテ安永九年米三俵ヲ

賜ハル

三太郎

三太郎ハ上山南村ノ人母ニ事ヘテ孝ヲツク

ス童年ヨリ佗ニ傭シ暇ヲ以田六畝ヲ佃シ其

旨ヲタヤサズ母腹アリキ性ニテ非理ニ怒ル

丁シハクナレ正愉色カハル丁ナレ天明元年

褒美ヲ賜ハル官刻孝義録ニ出

千助

千助ハ廣谷村ノ人孝行ヲ以天明三年褒美ヲ

賜ハル亦官刻孝義録ニ出

久五郎

久五郎ハ野上村ノ人孝行ヲ以天明八年褒美

米五俵ヲ賜ハル官刻孝義録ニ出

コノ外孝義録ニ收入ラルモノ孝子土生

村長五郎同村女おむ向長谷村三十郎府中

市女つま同村節婦阿きアリ然にコノ書ノ  
例見存ノ人ニ及ホサ、ルヲ以ノセス凡  
藩朝ノ賞典ニアツカリシ人モ蓋棺車定メ  
長右衛門

長右衛門ハ桑木村ノ人モト里正ヲリ孝ニテ  
寛政二年錢二貫文賜ハル

與六

與六ハ津御村ノ人孝ニテ寛政二年米五俵ヲ  
賜上同十二月御茶屋ニテ錢二貫文ヲ与ヒ

酒ヲ夕ニフ

市六

市六ハ中須村ノ人孝ニテ寛政四年米三俵賜

又吉

又吉ハ田島ノ人孝ニテ寛政四年錢十五貫文

賜ハル

又吉

又吉ハ勘五郎ト云モノハ妻出口村ノ人節義

ヲ以寛政六年褒美ヲ賜ハル

淺右衛門

淺右衛門ハ市村ノ人家内四人ノ内父母老テ疾シ伯父又兵衛亦足ナエテ耕スコトアタハス淺右衛門晝ハ備シ夜ハムレロヲ織テ父母伯父ニ耳旨ヲ供ス寛政七年錢二貫文賜ハル

助六

助六ハ上御領村ノ人孝ニテ同年ニ賞セラレ

市太郎

市太郎ハ八尋村ノ人孝ニテ寛政九年ニ賞セラレ

テ

久五郎

久五郎ハ道上村人孝ニテ文化丑年錢二貫文

賜ハル

元助

元助ハ同村ノ人亦孝ヲ以賞セラレ此人平生

慎黙ナルユニ隣局モ<sup>シ</sup>シル人ナカリシヲイツ

ノ頃カ有司ヨリ訪問アリ村吏ハシメテ視察

スルニ夕カハサリシヨシツタフ

乙松

乙松ハ阿字村半七カ子童年ニテ孝マリ

公行部ノ井駕前ニテ錢ヲヨヒ菓子ヲ賜ハル

多助

多助ハ阿字村ノ人母ニ孝行ニテ錢二貫文賜

ハル明細書ニ酉年トアリ其後マタ家内睦キ

ヲ以錢二貫文賜ハルイツノ頃ナリシヤ

久三郎

木綿屋久三郎姓ハ大戸府中市人久三郎ハソ

ノ家代々ノ通名此久三郎名ハ直純ワカキヨ

リ孝友美行多ク二十七ニシテ市ノ組頭トナ

スルソノ後妬者アリテ讒シテ獄ニククタヌ罪ナ

ケレハヤカテユルサレテ歸ル直純イヨク行

ヲ屬下レ解難救窮等ノコト義ヲ見テセサル

コトナシ貧家ヲ賑ハスニ中夜ニソノ家ニユ

キ鈔モシクハ金ヲ投入テ歸ルハシメ人シラ

ス数年ノ後ヤウヤクサトル四十二ニシテ出

口村里正トナル直純カ兄別居スルモノ死シ

テ遺債アリ直純ニナコレヲ償フ浦上盛榮ニ

カヘスヘキモノ十金盛榮辭シテウケスツヒ

ニ議シテ人ニ貸シ利息ヲアツメテ閣塾ヲタ

ツ今ノ樂群舎是也直純自ラ書庫ヲソノ中ニ



夕テニ夕三十金ヲアツメテ墾田ヲ買ヒ修理  
ヲヨヒ購書ニソナフ荒谷川ノワタリ石砦ア  
リテ橋ナク水漲ノ時毎々往來ヲ阻ツ石州官  
吏ノ通行ニハ多ク人夫ヲ出シテ費多シ直純  
コレヲウレヒ今ソノカタハラニ橋奈トイフ  
所アレハ昔カナラス橋アリシナルヘシトテ  
上下二橋ヲ架ス翌年一橋崩レナカレシヲ處  
ヲウツシテコレヲ修ス人夫ハ荒谷出口ヨリ  
アラソヒ出シカト費ハ皆直純ヨリ辦フ前後  
凡三十餘金寛政十一年也カツテ朱子社倉法

ヲヨミシテ直純自ラ麥二十七石六斗ヲ出シ  
志アル人ヲス、ム終ニ九十七石ヲ得夕リ其  
法年々人ニ貸シ豊年ニ一割半中年ニ七朱羊  
ノ息ヲオサソ凶年ニハ息ヲトラス出シテ窮  
民ヲスクフ丙寅ノ年二百七十八石五斗六升  
餘アリ即倉ヲタテ、コレヲオサム費凡四十  
金直純ソノ三分一ヲイタス寛政九年也出口  
村ニ米三石四斗百姓ニワカ千アタフヘキア  
リ即百姓ト議シテ社倉トス法府中ノコトシ  
積テ四十石トナル亦倉ヲタテ、オサム費二

十金亦直紙コレヲ出ス文化三年也出口村水  
スツナリ早年ニハ熟シカクシ直紙羽中ニ一  
池ヲ鑿ル人夫ハ村内ヨリキリヒ出マク近村  
ノ人義舉也トテ來リタスケシカトモ其糧ハ  
ミナ直紙ヨリ出ス凡三十金餘寛政十二年也  
福山近傍ノ人金ヲ醵シテ義倉ヲハシムルモ  
ノアリ直紙乞テ六十金ヲイタス文化元年也  
アル日一書ニ十金ヲソヘテ府中村吏ニ附ス  
其書ノ曉ニ云當市藁屋為裏借屋皆失火ノ時  
難波仕作ル何卒申合一極ニ危葺ニ仕存志孔

ニ沙屋能ハ近來年柄不直シ越申出修場合  
茂多沙屋能如何可仕哉思業仕見申能ハ共相  
汝方茂多沙屋能至ルカ分ニ沙屋能ハ其ハ  
ハ金子為年沙屋能ニ其年利息也積又其任合  
沙助カ茂任年下修シ縦令裁年ノ流ニ至能ハ  
茂任志孔相調能核沙屋能下修リハ其以上  
大基ニ沙屋能能ニ及如何核ニ沙屋能能下  
以テ茂任私子孫一言ニ申分ニ沙屋能能仍一  
札相流中能云云寛政十年也右ニアケタル所  
ハアハ子ク人ノレレル所ノ外ヒツカニ險

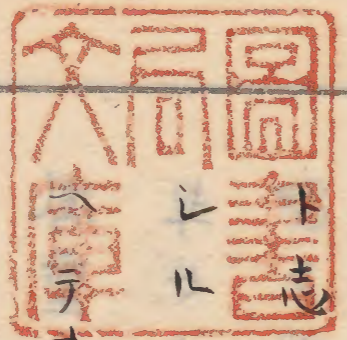
跡ヲ平ラケ汗處ノ水ヲヤリシ類教ヲレラス  
ハレノハ名聞ノタメニスナト、毀謗セシ人  
多カリシ故アル人ノ諫モ用ラレシカ後ニハ  
直純ヲ毀謗スル人ハカナラス子レケタルヤ  
ウニ人モユヒサシ、カハ闔國隣郷迄モアリ  
カタキ人トイヒハヤシ又前後有司ノ賞ヲ蒙  
ルコトアマタ、ヒ中ニモ  
公入部ノトキ官署ニメサレテ金五百匹ヲ賜  
上行部ノ時府中ノ御宿ニメサレテ御杯ヲ夕  
ニハリ明年四月御屋敷ニメサルコノ夕ヒ

ハ袴帶劔ニテ出ヨト命セラレ白銀三枚及  
酒肴ヲ夕ニフ凡直純カ用ユル所ノ金生産ニ  
アニタノ餘贏アルニアラス平生節儉ヲツト  
メラアミリアルヲ見レハ必人ノ夕メニス故  
ニ其家困乏ニイタラス此人長ク世ニアラハ  
善行懿事コ、ニ止マラサルヘキニ惜カ十五  
十七歳ニテ身ニカル文化三年丙寅十一月十  
二日也

常右衛門

吉津町津國屋常右衛門ハ府中市産ニテ久三

即直純カ同母弟也名直光十五ノトシ福井氏  
ノ嗣トナリ二十ニシテ吉津ノ宿老トナル  
福山モト有鹵ノ地ニテ水鹹キユヘ町々ニナ  
蘆田川ノ水ヲヒキワカツ吉津ノ水道ウツモ  
レテ通セサルコト年ニサシ直光至トシテ議  
シテホリサテハ費用多半自ライタス羅門ノ  
北ニ閑地アリ直光願ヒウケテ家ヲタテトシ  
ク房租ヲオサム又雜穀ノ運上例トシテ吉津  
ノ宿老ニタニハルコト中頃ヨリヤムコト久  
シ直光又願ヒウケテモトノ如クシ房租トオ



ナレク水道ノサテハノ用ニタ凶年ノソナ  
ニタクハフ近頃畠戸ヲツノリテ義倉ヲハシ  
ムル者アリ直光二百五十金ヲ納ル凡直光兄  
シルコトシヒソカニ人ヲ惠コト多ケレトス  
シテ其人ニハシラシメスコレモハレノハ謗  
ヲウケレシカト眞實ツイニアラハレテ世ニ信  
セラレ有司ヨリ賞賜アリシコトシハレハ也  
公行部ノトキハ特ニ駕前ニメサレテ御杯ヲ  
賜ハル五十四ニシテ久三郎ニ先夕テ没ス

僧行阿

行阿ハ新市安養寺先々住也 公法僧儀ニ違  
ハサレルヨシニテ寛政五年賞セラル

僧鳳靈

鳳靈ニ夕靈昌氏云神邊光蓮寺先住也高屋川  
年々沙淤シ平生水スクナク霖雨ニハ漲溢ハ  
ヤク数村ノ害トナルヲ追々ニサリユクヲ  
テ已メ信スル輩ヲアツメテ農隙ニ疏浚セ  
ム此ヲモテ寛政十年賞金三百匹ヲ賜ハル此  
僧少年多病ニテ父老嬉遊ノ事ヲス、ム因テ

賭博ニフケル後ニ折節讀書其宗旨傍ニ依  
書ノ良ナラスカ子テ詩歌ニモ及フ播州ニ智  
暹ト云僧アリ宗旨ヲ卑フテ所見ヲ正義也ト  
唱フ鳳靈ソノ羽翼ノ一也近頃又新義ヲ唱フ  
ルモノアリ衆僧雲ノ如シタカハ氏鳳靈ヒト  
リ昔セス廻年讒ニカ、リ本寺ニ呼上サレテ  
一室ニ幽セラルホ巳カ所見ヲ確執シテ屈  
セス終ニ病テ逆旅ニ死ス身ル所アリト云ハ  
シ詩歌稿ナシ人ノ記シタルヲ記ス  
中應二三子請講梵值中秋月佳輟事同賞

中秋把酒對前除月照蕉窓綠欲虛喜見無邊光  
裏客醉談猶及梵文書

塞下

漢家飛將破胡時百戰沙場身未疲誰料今宵陣  
中笛無端吹起故園思

閑居聖

柴牀戸の折く人乃といこしと名ふこ之と  
こけのうしひは

池月

さく波たよるとも之くは池水乃のさ川か

そえうはきりけ

僧祖應

祖應ハ福山泉龍寺先住也公法僧儀ヲ守ル

ヲ以享和二年銀二枚賜ハル平日朝午飯ノア

テレルモノ次ノ食時ニ必ミツカラ食シテ糴

僧僕僮ニハ新炊ヲクラハシム夏日ヤ、香ア

今レキヲモイトハス甚ケレハ水ニ入レ洗テ食

ス僕僮辭スレ臣己カ好ム所也ト云テキカス

凡自身ニ薄ク人ニ厚クスルヲミナコノ類也

ト云

庄助典太郎ヨリ此ニイタルニテハ賞典ニ  
アツカリシヲ以一所ニアツゾ録ス因テ年  
代次序アラサルモノ多シ

今川昌意

昌意ハレノ散木ト稱ス名和元字子霍号慎齋  
福山人アルヒハ備中人コ、ニ來住スト云讀  
書ヲ好シ性放縱酒ヲ嗜ム備中吉井村ヨリ歸  
ルトキ籃輿氣シ、マルトテ輿上ニ跨リ腰扇  
以馬ニ策ツ体ヲナシ馳セヨハセヨト呼フ  
輿丁モサラハワレクヲ馬ト思ヒ玉ト云ツ

ツハシリユクニ溪ノフカキ所ニ逆ニ墮タリ  
リノ狂態コノ類ナルコト多シ妓女ノ詩一絶ヲ  
記セシ人アリ  
門外垂楊拂閣斜醉來懶奏後庭花多情未向衆  
中語立盡欄干薄暮霞  
老テ狂マス、甚シクイツクニナク出行テカ  
ヘラス或屈太夫ヲ學タリ尼云又阿州ニユキ  
シ人市中ニテ逢タリトモ云終ル所ヲシラス  
ハシメ称ヲ正意トカク正字  
公ノ御名ノ一字ナレハイカト云人アリテ

三トトアラタム正ノ字ヲ拵キテ二字トセシ  
也略書ニ五分三分ヲヌト三トトカリユハ女  
児誤テ三分様トヨハ自身モ三分ト唱ヘシ  
カ後ニ昌意ト名ツケレト云  
僧眠龍

眠龍字冀徳定福寺ニ住持ス詩文ヲコノミテ  
韻流ニ交ハリ朝鮮ノ南秋月等カ來ル片モ請  
テ相見ス鈴木冠岩ニ答ル詩一首ヲツタフ  
次韻鈴木冠岩居士  
金仙說藥艸扁鵲是吾師二豎逃育際五禽飲上

池荷恩栽杏楸象輿摘春詞濟物高論辨誰應當

一時

或ハ馨檢校某ク子ニテ父カ秘藏シタル空蟬

ト云琵琶一張ヲツタヘレカ今某侯ノ藏ニ歸

スト云安永年間常福寺ニテ没ス

木村雅敬 道雅 正養

雅敬ハ府中市人第道雅姪正養ニナ和歌ヲ好

ム正養ハ詩文ニモヲヨヘリ今傳ハラス

友梅

あけて人色をと思ふ窓の内より夕暮あま乃



かてれいじゅう者

野夕立

ふしれ福いとよいぬ雲の一村やもとれよきふ  
ゆふいちれ何免

圃康

松よ吹折ししれ山のり落し福さあしふ

さどしうめらる

炭竈

ふる言よ煙みもあしれあやしく知し初し

小蛇、まふかま

新恋

きふの川波の〜ぬれしりり〜いぬ〜

なみれあ〜あ

道雅

苗代

せき入し苗代らのととみて稼すしワくる

はととく〜

暮去

いと年乃中少とらきてとしむらよともふ鳥此

く〜乃〜

掛衣籠

里ことよあき乃衣いひつものあきもあきし  
さきふあきりせ

休老

あきまにあき乃さきさきあきあきあき  
あき乃らあきあき

正養

妻婿

まよりのあき乃あきあきあきあきあきあき  
あきあきあきあきあきあきあきあきあきあき

孫お掛松

すまゝしれ世くあきあきあきあきあきあきあき  
あきあきあきあきあきあきあきあきあきあき

取急

あきあきあきあきあきあきあきあきあきあき  
あきあきあきあきあきあきあきあきあきあき

深津節婦

深津村某カ妻ハ市村某カ女美ニシテサカシ  
嫁シテイニ夕半歳ナラガハニ夫悪疾ヲウレ  
フ妻看護心ヲツクシ晝夜怠ラス國俗ハナハ

夕此疾ヲ耻キイメハ親兄弟ヨリ棄テカ  
レト勸ムル丁頻ナレキカス舅姑モ夫モソ  
ノ志ヲ感シアタラレキ鍾美ノ女カクテ先シ  
メシモ不便也トテ具意ヲイヒキカスレレシ  
タカハス媒シタル廣八ト云モノニ夕ノミテ  
トキクトカシムル丁シハくスレレイラヘス  
サテ疾重レルニ至テハ膿血ヲ拭ヒ去リ二便  
ヲタスケ清ムルマテ皆ミツカラシテ露イト  
フケハヒヲ見ス枕シテ眠ラサル丁十三年夫  
死シテ三月ハカリアリテ終ル廣八ハ晋帥カ

縁泉也夕ヒくコノ丁ヲカタリシカ惜ムラク

ハソノ名ヲ失ス

村朗

朗字ハ子鑑俗稱村上統平備後松永人詩ニ長

搗衣曲依津川生韻

荏苒秋云暮蕭森夜已長  
颼風何颯々吹入妾空  
房庭柯倏搖蕩白露結為霜  
艸蟲紗窓苦朔雁西  
南翔懸念無衣客卧内獨悲傷  
扶淚出庭際纖手攬衣裳  
掃砧頻擣練繁杵鳴丁當  
哀音破人夢杳

汗濕淡粧擣罷裁燈下盈筐寄阿郎阿郎今何處  
帳望黃沙場萬里烟雲外三年參共商遭會知何  
日信誓豈能忘仰看慕鴻鵠俯見羨鴛鴦願生凌  
雲翮直到天一方

次牛子行韻却寄

離群憐爾異鄉居况復頻年音信疎俗眼何知和  
氏壁大玄誰會子雲書黃金湖海絳袍盡絲筆天  
涯豪氣餘詞客飄零今古等驥心千里莫躊躇

次韻月燈師季冬夜坐

玄冬雪霽月輪清獨坐殘樽幾度傾三徑衡門無

轍跡五更山寺有鐘聲青雲非復淵明事白眼誰  
知阮藉情偏厭人間工變態不如杯酒過餘生

十五夜獨坐思明石蘭州

草堂蕭索曲江頭無客良宵懶上樓彭澤桂樽空  
對月安仁蓬髮又驚秋蛩蟲聲苦燈檠外鴻雁影  
寒蘆荻洲偏恨親交南北隔一年幽約負清遊

依鳳州谷河生韻

列子由來能御風超然自適太虛中眼看逝水長  
無盡隨意江湖興不空月下吳牛經幾喘花間胡  
蝶竟何功生涯夢裡堪惆悵對鏡偏驚白髮翁

同安子桓咏蟬作

難耐炎蒸日鳴蟬滿林林翼同閨女髮聲異草蟲  
吟三伏餐風意百年飲露心物微原寡欲澹薄送  
光陰

大明妃曲

一辭鳳闕向邊城不奈黃沙萬里程忍淚琵琶奏  
新曲胡王翻樂斷腸聲

王浦青樓

瓊浦青樓海岸邊娥眉蟬髮也堪憐倚欄低語知  
何事呼取了鬟招客船

次韻藤子直閨怨

去年夫婿向邊城白竹黃沙萬里行別後閨中撫  
孤枕秋風明月玉闌情

李秋病中吟

落木千峰迥寒空片月虛臥聞天際雁未得故人  
書

僧周契

字處仲号寰海福山人安藝佛通寺兩足院二住  
持不詩ヲヨクシ集アリテ梓行ス大瀬和尚ノ  
カケル上人ノ詩ノ序ニ安藝人ト云ハ誤也頼

千秋童年上人ニ隨テ福山ニ來リ上人ノ父母  
ノ家ヲ窮巷ノ内ニ訪ヒレテアリト云

根岸兵彌

銅平

兵彌ハ福山人久ク笠岡ニ住シ先テ備前ニ仕  
テ劍術手搏ニ妙也來學ノ人三千餘ニ及ニア  
ル中門人数輩擊劍ヲ習フ兵彌ヲノ側ニアツ  
テ睡ル鼾聲カウクメリソノ上ニ掛燈檠アリ  
シカ木刀ノ端アヤマトツテコレニ觸ル兵彌カ  
頭上ニ落ツ人々アハヤト立ヨリシニ兵彌ス

テニ扇ヲ以サハエテ傷ヲ受ケス人ミテ神ト  
ス時ニ木太刀ヲ以行燈障子ノ紙ヲ切ルニ木  
刀紙ニ觸スレテ小刀ニテ截カコトシ門人コ  
レヲ先生ノ太刀風ト稱ス二事ノ類コトニ多  
クシ為人温和ニメソノ能ニ矜ラス人ミテ愛慕  
ス老年中風ヲ患ヒ半身不仁スレト尚ソノ術  
ニノソメハ平生ニカハラス瓶花茶事ヲ愛ス  
常ノ言ニ生花ニ常ノ生花アリ野山ヲ行片モ  
コノ賞ヲワスレサレハ楸柳ヲミルニ娛多シ  
茶モ常ノ茶アリ茶室ハ入リ客ニ對スル片ノ

之茶ニハ非ス平生ノ身持アリク行儀ト、ナ  
ハサレハ茶理ニカナハス劍術ハサラ也木刀  
ニテ立ムカフ片ノ之ノ劍術ニハアラス孤坐  
獨行ノ片モ此心ヲ忘ルヘカラスト云義子銅  
平ハ江良村ノ産コレモ劍搏二技ニ名アリ  
三木誠  
誠ハ福山人字ハ元常  
梅水堂席上次緒生韻  
與君論古日千歲想流風少小憐王勃先成愧孔  
融文章隨世運花草各天工寄語二三子莫言吾

道窮

蓮華亭即車次平士清韻

西嶺餘暉照綠苔蓮花亭上好啣杯風流不讓虎  
溪興笑語狂歌携手來

正路

正路俗稱ハ源兵衛神野氏ニテ福山ノ市人也

狂画

後士の棹の常とくおのれと分ちる糸ふり紙  
ふゆのゆまひを

卯七

た〜ぬいふあけやまきと知のむ乃垣ほと口と  
あ〜〜〜〜

吾消妻の来

とく山此吾解あ〜〜して何れ此岩洞ふゆらむ  
とるれかをばら

五遊穿浦志

意あ〜〜て生内此海に〜〜波乃ら〜〜しり〜

あ〜〜い〜〜

元文

元文と福山ノ市人高見屋新助ト稱ス

平井良直  
平井良直  
良直彌十次郎福山人祖先水野家ニ仕フ

除夜書懷  
復値歳華盡凄然懷帝州帝州阻千里離別已三

子世と〜〜

あ〜〜い〜〜

あ〜〜い〜〜

あ〜〜い〜〜

平井良直

良直彌十次郎福山人祖先水野家ニ仕フ

除夜書懷

復値歳華盡凄然懷帝州帝州阻千里離別已三



秋獨坐者新曆通霄感舊遊無由獲雁札何日共  
仙舟閑待春風至孤酌向誰酬

身送道光上人歸浪華

人間裏散感浮萍雨逐春潮滿晚汀縮柳橋邊分

手去櫓聲伊軋入冥々

片山守春

俗稱友八後二墨隨十云府中ノ人画ヲ能スル

ヲ以法橋ニ任シ藩朝月俸ヲ賜フ

有木元善

名六吉字八元善号八雲山赤坂村人醫ヲ業ト

又所著ニ吐納暇言アリ老子ヲコノミテ送ヲ

以ク此二書晋師イマ夕見ス

僧月燈

燈字八竺然山南寶光寺前任

六月十五夜觀月有感

月愛頻觀三昧場香風况復仰清光即今沙界浮

雲盡二萬灯明相映涼月愛三昧二萬  
燈明並見佛書

六月二十九日夜漫賦

香樓夜半氣蕭森况復清蟬動好音知是新涼秋

色近卧思天上二星心

送南溪閣和還越前

太氛六月跼人稀  
錫杖摩空出帝畿  
此去琵琶湖水濶  
明朝應泛木杯歸

灑河舟中望伽藍

官觀玲瓏倚碧峰  
清風吹送午時鐘  
舟中回首松蘿外  
應有僧伽制毒龍

早朝山行

平明戴笠上青山  
山靄蒼々躑躅殷  
宿霧將開陰嶺外  
錯疑身在彩雲間

和山口君宿弊寺

偏為知音少  
相看喜欲狂  
風流君共我  
偶坐面相忘

陶史

史八名字ハ三秀福山ノ醫人詩歌ヲコノム

失題

獵々陰風正北來  
吹旂直上李陵臺  
平沙一道黃雲晚  
遙見將軍射鵝回

園郭公

一考ハ如免ハナシキ故ヨリ又ニ中ノ三川美五此  
尾生ハナシキ

夕立雲

とれてしそあそろしそと夕立け雲しそあそ  
木音乃ツツそー

暮秋

青しそ秋あそとつふ二つれ秋しれそ乃そ  
さそいゆくらん

又忍久慈

志く秋とも松とゆりしそとそふ山んれそと  
りらハかりしれ

土屋宗進

福山人

七十一名丈石衛門画ヲヨリシ法橋任ふ

僧覺雲

覺雲ハ福山光善寺ノ住持韻僧也歌二首ノ記

不

瀧邊堂

瀧邊のあち波のきくし思ひかして  
とふりさうと

吉祥院村天満文多酒丸里梅と

文人のこゝとふれそふれもし人し山ふちそ  
さとしむりか

僧祐照

祐照八覺雲力第ハヤク没ス

路上口占

江頭雨霽好吟行  
引侶遙尋閑士房  
忽看彩霓將  
斷處遠山紅葉映斜陽

晚秋

梵林秋色老寂莫  
野川阿院菊殘香  
散窓蕉一雨  
過擁爐思往事  
歎閉卧沈疴倦  
枕難成  
睡庭前  
落葉多

登弘宗寺吊田本高墳

報國勤勞三十年  
成功誰解比君全  
涉水踏雲趨  
官舍醉日迷花尋  
酒筵夕照依々  
新墓影秋光  
寂々舊栖烟生  
菊一束感悲感  
落葉浮雲兩慘然  
枕雲亭咏甌  
掬白山茶分得  
葉字  
瓶中愛此白山  
茶水淨而枝  
重翠葉枕上  
時々聞異香  
燈前夜々生  
光睍開時真  
有似懸珠落  
屢疑看如下  
蝶醉裡闍  
詩得僻題  
恐佗幽趣  
難相愜

時雨

冬さ秋ハ志々色々ぬ日ハ  
夕々夕々夕々夕々夕々夕々  
夕々夕々夕々夕々夕々夕々  
夕々夕々夕々夕々夕々夕々  
夕々夕々夕々夕々夕々夕々

松丸

尤字公輔稱小松七右衛門福山人

青樓曲

十五青樓廿輕羅時世粧簾鈎斜日落春恨為誰

長

賢忠寺垂絲櫻

侯門易主歲年餘遺澤猶存市萬家僧侶不知當

日恨咲着墳上一株花

春日遊明王院

看春身漸老依舊百花新相值紅粧女都無白首

人

送管氏應諸侯辟赴西都

離筵三月百花開白馬春風意壯哉北海尊前多

少客不知誰是榻生才

石井之恭

名公之恭字八子禮稱八武平次号八熊峯神村

人足不良三ノ遠行セ又一室ヲ構一ノ書ヲ日

博覽ナラフモノナシ寰海集ニ武平次書齋

ノ詩アリ

近藤克一

克一字伯恊一字玄郁下安井村人詩歌多善又  
馬嵬

河朔陰風動地來沈香亭子忽塵埃一時解語花  
空落長使芳魂留馬嵬

又  
南內蕭々月色深嬌魂此日向誰尋  
林鈴一曲午行淚碧落黃泉夜々心

曉發竹田鼓谷途中口號  
繞村修竹翠成堆中有叢祠羊蝕苔  
祠畔人家斜夾路行聞少婦唱遼來

桃花流水別

桃花流水四時春不識塵間經幾秦  
何事等閑開小口謾通源上捕魚人

家牛死詩以悼之

幾年盡力耕不休檻柵蕭然兜嘴留  
偏多未與齊將策却憐屨惹漢相憂  
煖日春風芳草岸閑眠日與牧童儂  
瘦背馱薪下幽徑尖角掛笛追閑遊  
誰知向來寧戚興空蔑高歌淚自流

次韻杲

時將登明淨寺

五柳蕭條水上村烏藤出戶興逾繁  
莫將松菊籬

邊酒不及蓮花社裡尊

咏撞

夏時倍養代蠶桑吐繭秋來白似霜結實誰偷王  
母果拾英欲補屈原裳紫莖露曠塩誰撒綠葉風  
飄雪乍揚却訝春空飛柳絮弓絃鳴處轉輕狂  
南嶽廂君以敗瓦釜為額揭諸堂上使余賦詩  
瓦釜如缺月奇狀趣清新這裡多閑味阿誰染指  
人

木偶美人

木偶逼真時世粧舞衣新製小紅娘春風花外不

勞夢秋夜月前懶拜床却喜細腰欺閨氏何論織  
手怒周王滿腔渾識無情思一線機閑欲斷腸

蝶

三春樂意與蜂儔尋翠搜紅不少休雕檻狂揚金  
眼翅紗窓飛上玉搔頭花林栩栩偷香去菜圃垂  
々帶雨愁草際午晴懶眠足定知魂夢化莊周

偶成

世人貴權道權道屨有功卑々勤名實少恩不得  
忠申韓何人也俱是不克終誰言聖道迂迂自不  
失公

西海有真人斯文不我欺悠悠天地間獨闢萬世  
規誰不蒙恩澤誰不歌德基我輩雖異域一經有  
餘師

十四夜對月

風雨禍幽期雲霧蔽大清古今有此厄幽人恨未  
平涼飈鳴庭榭喜見月清瑩峯影低在簷圓景將  
欲盈仰視雲霄象先卜未夜晴霽華凝桂叢金波  
汎酒醜徘徊懷嘯侶空牀蟋蟀鳴獨歌窈窕章向  
誰攄深情人世少歡娛荏苒歲月征唯思文字飲  
不願綺羅榮恨此杯中月不共故人傾

中秋同諸友遊蘆田川賞月

昨夜既卜今宵晴一輪不缺三五明雲吏風伯不  
為暴千山萬壑寂無聲星斗斂光天一色河漢無  
影夜三更四野秋容霽湛々滿川晴色水盈々一  
杯醺月蘆田曲素娥不語似有情去年此處携嘯  
侶今年復尋月下盟月下幽歡心如水水心泠々  
兼月清回棹剡溪薄子醺鼓泄滄浪笑屈平庾亮  
搴頭不須羨遠宏渚邊亦何榮醉後同誦明月詩  
潦倒月下到鷄鳴

途中見尼



雲鬢一擲水雲禪皓齒明眸繡佛前  
身上水田連  
理織猶憐花柳舊因緣

釣臺

曾犯紫微星象開叢祠枯樹白雲堆  
高眠心在灘頭月閑脚痕留石上  
苔三聘不參廊廟策一竿空擲棟梁才  
依然萬古江山美徒使騷人題釣臺

秋夕

茅簷涼夜雨點滴更添秋  
樹影孤燈冷蛩聲四壁  
幽少年如夢裡往事到心頭  
偶得溪魚贈村膠與

婦謀

林園舊地感舊田  
田田竟民以人

あはれなうらみとていふ人ぞ  
あはれなうらみとていふ人ぞ  
あはれなうらみとていふ人ぞ  
あはれなうらみとていふ人ぞ

あはれなうらみとていふ人ぞ  
あはれなうらみとていふ人ぞ  
あはれなうらみとていふ人ぞ  
あはれなうらみとていふ人ぞ

あはれなうらみとていふ人ぞ  
あはれなうらみとていふ人ぞ  
あはれなうらみとていふ人ぞ  
あはれなうらみとていふ人ぞ

あはれなうらみとていふ人ぞ  
あはれなうらみとていふ人ぞ  
あはれなうらみとていふ人ぞ  
あはれなうらみとていふ人ぞ

あはれなうらみとていふ人ぞ  
あはれなうらみとていふ人ぞ  
あはれなうらみとていふ人ぞ  
あはれなうらみとていふ人ぞ

あはれなうらみとていふ人ぞ  
あはれなうらみとていふ人ぞ  
あはれなうらみとていふ人ぞ  
あはれなうらみとていふ人ぞ

あはれなうらみとていふ人ぞ  
あはれなうらみとていふ人ぞ  
あはれなうらみとていふ人ぞ  
あはれなうらみとていふ人ぞ

あはれなうらみとていふ人ぞ  
あはれなうらみとていふ人ぞ  
あはれなうらみとていふ人ぞ  
あはれなうらみとていふ人ぞ

はれかふとよきそけりせはあまのりごりくハ世ふ  
いとれをといせ

述懐

うしとれりいけし世はまこりまのまむくしあし  
そむく思きうを

蛭虫

りりそとれ葉乃布りと松虫乃子代とをけむ  
時迫れら名し名

唐毒

あしほれおさのぬるハゆくとちりあれと毒

ふしそあしあん

あしそあしあん  
あしそあしあん  
あしそあしあん

はくくあくゆりときけし道之ぬハ  
いりいりいり

元日

あしあしあしあしあしあしあしあしあしあし  
あしあしあしあしあしあしあしあしあしあし

瞿麦

あしあしあしあしあしあしあしあしあしあし

りまさきにけり

見え

しいとあそいけきあへんやうふとんとんり

ちきりまハ人

竹急

仍しぬうはとち我とらぬやとすり夕永ハ

うのやはとぬ。

家天祝

あまきりよすえととよのすうとせをにけふや

あまのせくみを

八月十日東風あきまきけとて夏夜願うとと

何果とあやしく酒はして

さかかきる月よりけいはいかりん出れあはれ

あやぬすくと長女

埋火

あさよにりきれたこーても埋火れとらふハ

とふとやうぬ

家暮

くるま成りしてけしやあの子の昔ご

せしけくけり

依直

直入福山ノ修驗青龍院依亮力姪竹院卜彌又  
年十八ニテ没ス

即事

潮落海門沙路斜一簑新雨長蘆芽漁翁忽上輕  
舟去垂柳陰中軋々鴉

岸柳桂絲桃欲紅滿簾春水滿簾風隣家鶯鴨歸  
來晚畢々聲聞暮靄中

三月晦日

三春三月三十日一年春事一朝休今朝霖雨偶

得霽南陌東阡佳氣浮竹葉煙青流鶯語楊花浪  
白新魚游快晴此日可行樂難量風雨為花讐老  
綠陰映宛轉橋殘陽呼應斷續舟聊賦小詩歎推  
遷也慚庸下不成篇由來人生貴適意何必城居  
牽世緣西都海棠南湖水去年不賞又今年每逢  
美日多感慨強倒芳樽當枕眠輕寒夢覺幽齋夕  
林燈明暗照寂然

端午

處々竜舟晴色開門々仙艾暗香來草堂正熟菖  
蒲酒好盞紅榴花下杯

偶作

簾外薰風酒半醒  
讀殘一卷相牛經  
遠擔棟榭初  
過雨密葉藏花青  
又青

聞歌

薰風何處起清歌  
獨倚欄干喚奈何  
奮恨綿聯驚  
子野新聲溥切泣  
湘娥魏王臺上人  
安在崔九堂  
前歲又過知是今  
宵嬌怨足滿江  
潮水月光多

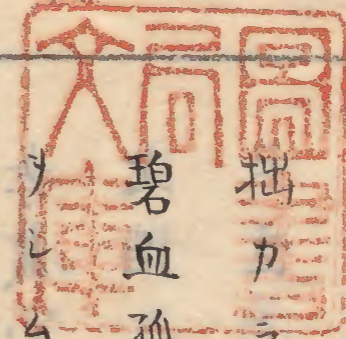
詠史

丈夫本是可封侯  
百歲心懷千歲憂  
海內衣冠叔  
孫禮閑中事業子  
房謀言論猶解和  
平勃瞻眎當

思決頂劉誰識安閑別有策  
商山一曲采芝謳

藤井孝藏

孝藏ハ深津郡浦上村人  
童年ヨリ博奕ヲ好ミ  
大酒ヲ嗜ミ或ハ人ノ田畑ニ實ノリタル物林  
ニ生シタル榎竹ナト巴カ物ノ如ク取り用ヒ  
或ハ酒店ニテ價ヲヤラス醉狂シテ甕甕ナト  
ヲ打コホキ或ハ寺社ノ神佛ノ像鉦鼓ナトヲ  
偷ニ出テ市ニ鬻ク後ニ我身ノイレラレサル  
ヲ知リシヤアル時何クトモナク逐電セシカ  
トモ難得又此人モナカリシニ年經テ立歸ル



ヲ見<sup>レ</sup>ハ顔<sup>ニ</sup>モ温潤ニ見<sup>エ</sup>言<sup>ハ</sup>詰<sup>ト</sup>モ鄙<sup>シ</sup>カラ  
 不行儀ニモ嫺<sup>ハ</sup>リ人々<sup>ヲ</sup>レキト怪<sup>ミ</sup>シ<sup>レ</sup>讚  
 州高松ノ某先生ノ家ニユキテ前非<sup>ヲ</sup>陳<sup>レ</sup>テ  
 家僕トナリ物カキ書<sup>ヲ</sup>讀ム<sup>コト</sup>ヲ學<sup>ブ</sup>五六年  
 ノ間ニ四書五經尤氏史記等ノ書<sup>ヲ</sup>頗<sup>ク</sup>解<sup>シ</sup>手  
 拙<sup>カ</sup>ラスカキ詩<sup>ヲ</sup>モ作<sup>レ</sup>リ屋島懷古ニ三郎  
 碧血孤墳在野水東流交綫橋ト云轉結<sup>ヲ</sup>記<sup>ス</sup>  
 一人ナリヤ死<sup>シ</sup>テイマ夕久<sup>シ</sup>カ<sup>ラ</sup>ス  
 蘇<sup>ノ</sup>能<sup>ク</sup>登<sup>守</sup>カ支<sup>藤</sup>ノホ<sup>リ</sup>孝<sup>藏</sup>モ亦<sup>其</sup>ウ<sup>ノ</sup>カ<sup>シ</sup>



